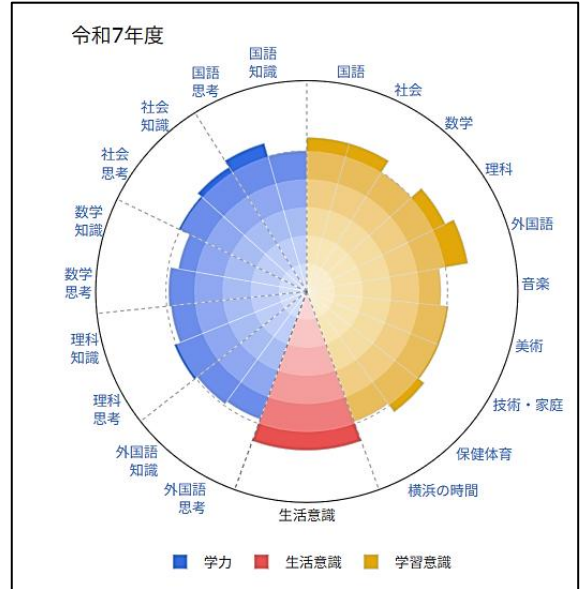
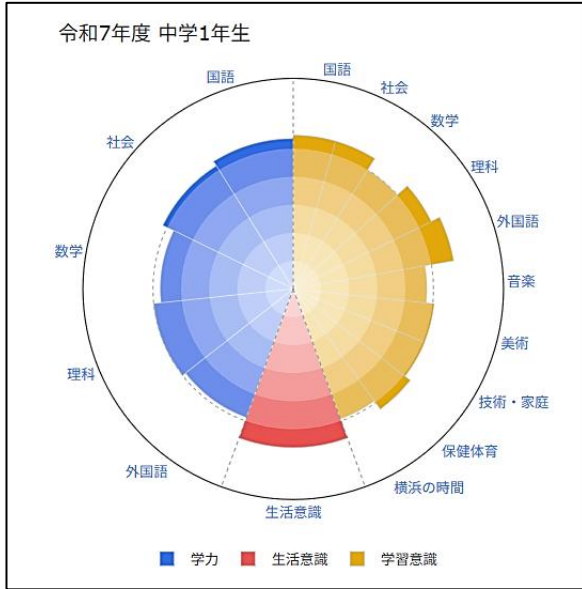


令和7年度 横浜市立南が丘中学校 横浜市学力・学習状況調査 結果分析

R7	国語		社会		数学		理科		外国語	
	本校 正答率	横浜市 全体正答率	本校 正答率	横浜市 全体正答率	本校 正答率	横浜市 全体正答率	本校 正答率	横浜市 全体正答率	本校 正答率	横浜市 全体正答率
中1	65.7%	63.1%	61.7%	60.3%	61.3%	63.2%	57.5%	57.5%	81.2%	82.0%
中2	65.8%	67.7%	53.5%	55.7%	52.4%	55.6%	47.2%	51.3%	64.7%	68.3%
中3	58.0%	60.9%	53.4%	53.1%	58.6%	58.2%	45.6%	47.9%	68.6%	67.8%

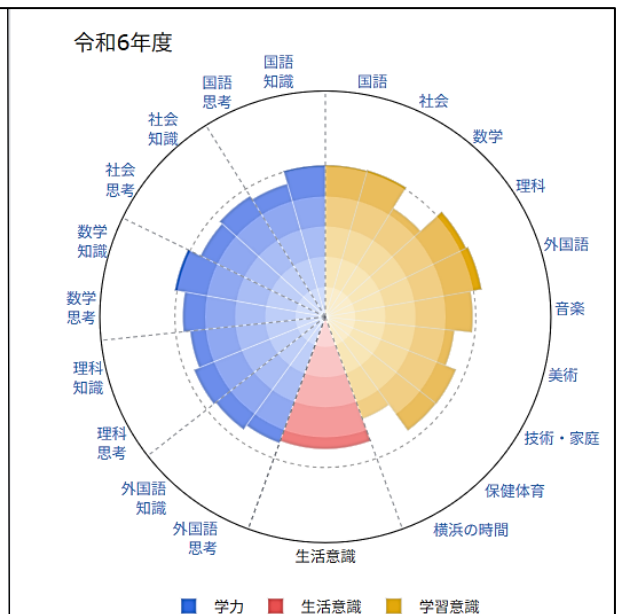
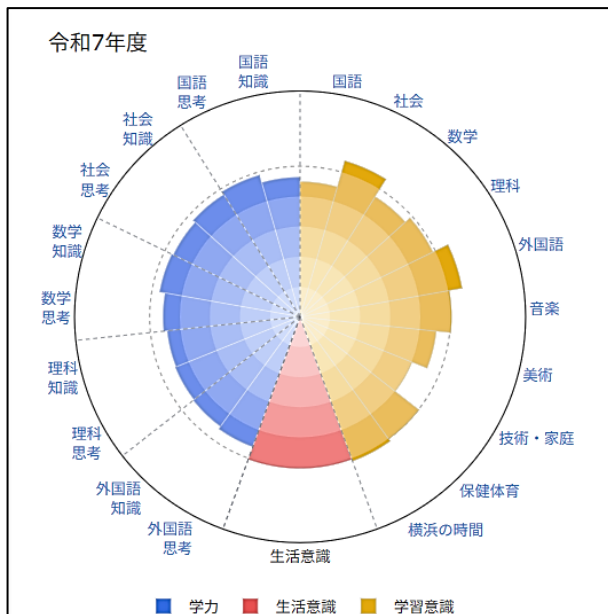
1. 学年別 分析

○1年生



- ・生活意識調査では市の平均を大きく上回り、特に「学校への安心感」や「あいさつを自分からする意識」の割合が高く、「わからないことへの考え直し」や「わからないことをじっくり考える」習慣が身につけている生徒が多い。
- ・学習意識調査では、半数以上の教科で横浜市の平均を上回り、英語で他者とコミュニケーションをとったり、調べ学習や実験などを通して考えを共有したりする活動をしていると感じている生徒の割合が多い。
- ・情報活用能力が高く、資料をもとに考察する国語や社会、理科の正答率が横浜市の平均より高い。
- ・数学は学力層の二極化がみられ、基礎の定着が求められる。

○2年生

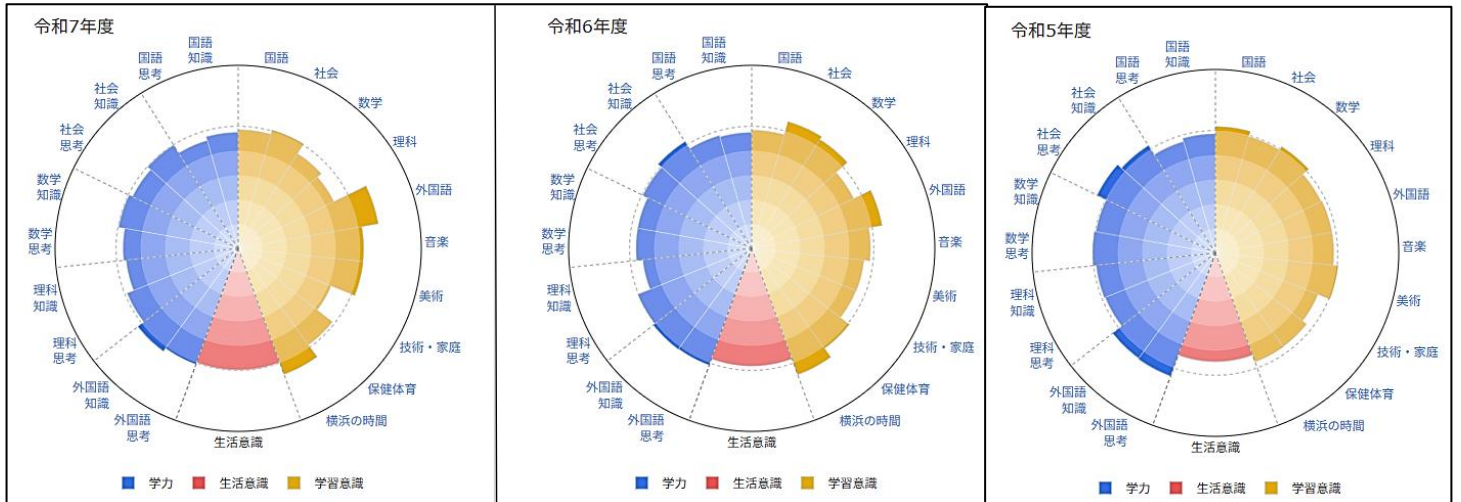


・生活意識調査では昨年度より睡眠時間が減少したにもかかわらず、学習時間が減った生徒の割合が多くなった。電子機器を使用する時間が増え、「人とコミュニケーションをとることが好き」と答えた生徒の割合が20%近く増えた。

・学習意識調査では、伝え合う活動のある理科や外国語、「横浜の時間(総合的な学習の時間)」で横浜市の平均を上回った。

・学力はすべての教科で横浜市の平均を下回り、基礎学力の定着が求められる。

### 〇3年生

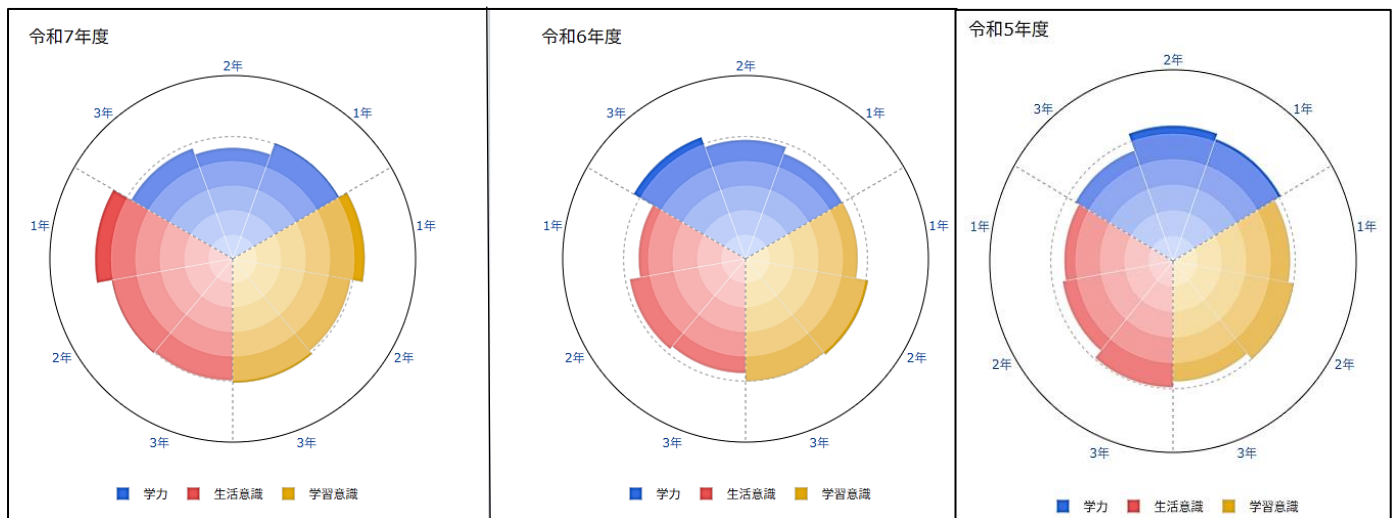


・生活意識調査では睡眠時間が減り、学習時間が増加した生徒の割合が増えた。電子機器の使用時間は、1年生から2年生にかけて3時間以上ゲーム等に使用する生徒の割合が増加したが、3年生にかけては全体的に使用する時間が減少した反面、学習に活用する生徒の割合が増えた。

・わからないことを調べることや自分なりの言葉や作品で表現する芸術分野や英語、「横浜の時間(総合的な学習の時間)」で横浜市の平均を上回った。

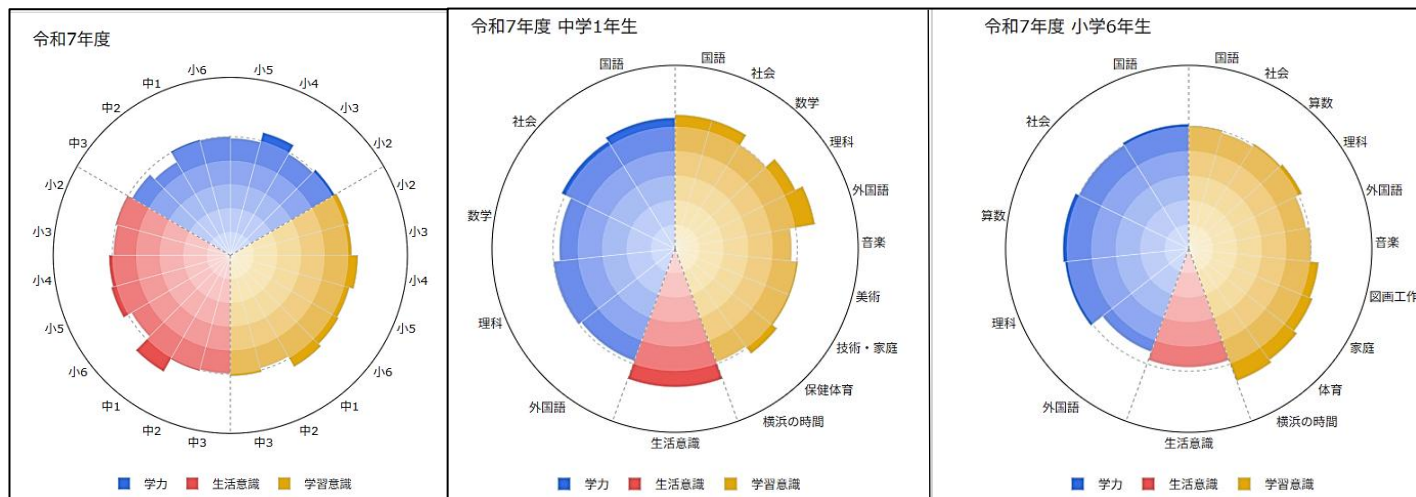
・学習意識と学力の関係が顕著に表れ、学び方や学んだことをどのように生かすかを学習内で改善していくことが求められる。

### 2. 学校 分析



・各項目の割合は3年間で大きく変わることがないため、中学校入学時での学習のつまずきや習慣の未定着がないように小中の連携を図ること、きめ細やかな指導と支援が必要であると考えられる。

### 3. 中学校ブロック 分析



- ・中学校ブロックでは、学年を経るごとに学力の低下が見られるが、全体的に横浜市の平均を上回っている。
- ・小学校では、活動的な学習や身近な生活にかかわる学習への意識が高いため、中学校での学習方法への引継ぎを行い、学習の充実を図ることが必要である。
- ・小学校での生活意識調査の集計結果をもとに、実状に応じた特別活動や教科活動の実施に生かしていきたい。